(No.07J0085)

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

１．事故・ヒヤリハットの別	事故
２．体験した事例の名称	救急救出活動現場での使用資機材による負傷
３．体験した事例の中心的要素	救助活動現場において、交通事故車両より負傷者を救出するために使用した、大型救助油圧機材（スプレッダ）に誤って指が挟まれ負傷した。
４．体験した事例の原因・理由	訓練・経験・意志の疎通不足

【体験した事例の直接的原因について】

１．体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。行動の実行に問題があった。

【体験した事例について】

１．発生日時	**平成** 17 **年** 8 **月** 3 **日　　午後** 2 **時頃**
２．発生した当時の天候	晴
３．発生した活動現場	屋外：中央分離帯のない車道上での交通事故現場
４．体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
５．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
６．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
７．事例体験時の活動	救助、　[　]
８．（７の活動中）どのような作業中に発生したか	人命検索・救出、
９．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

１０．ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者Ａ）

○当事者Ａ	年齢[39]歳、 勤続年数[21]年、 現場経験年数[21] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [１年に数度]、 任務 [車長]
○当事者Ｂ	年齢[36]歳、 勤続年数[16]年、 現場経験年数[16]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [１年に数度]、 任務 [機関員]
○当事者Ｃ	年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、 同様の活動 [ ]、 任務 [ ]
その他 (当事者が４人以上の場合)	

１１．事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過１	A	無線により現場状況を傍受したので、使用機材等を各隊員と模索	
経過２	A	現着したが、事故渋滞により進入不能、A が現場を確認後活動方針を決めるので待機を指示	
経過３	A	車両進入不能の為、使用機材の搬送及び 救出作業開始を B に指示	
経過４	Ａ・Ｂ	A・B が協力し大型油圧救助器具（スプレッダ）を使用し救出作業を開始	
経過５	Ａ	事故車両のドアが開放した為、B に器具の変更を指示	
経過６	Ｂ	A の指示により、スプレッダ収納時のアーム を閉じる際に、事故発生	
経過７	Ａ	B が操作するスプレッダのチップ部分に A の右手第 2 指第 1 関節が挟まれ切創	
経過８			
経過９			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合　　：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

○心理・体調について

ａ．あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

ｂ．注意力が欠如していた

・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

ｃ．経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

ｄ．心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	はい

○装備・資機材について

ｅ．資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

ｆ．障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

ｇ．行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

ｈ．足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

ｉ．適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

ｋ．関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

ｌ．その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

○注意力欠如、焦り等の対策について

活動を開始する前に周囲の状況を確認し行動することを再確認するとともに、活動中各職員間での確認呼称等の徹底を図る。

○装備・資機材の対策について

資機材を安全確実に使用するために、使用方法の確認を再度徹底する。

○活動環境の対策について

事故は誰にでも起こりえることなので、発生しないよう数多くの想定訓練を行い、自分自身も含め､各隊員の技術の向上に努める。

○指揮・情報伝達の対策について

職員同士の意志の疎通がない為にに発生した可能性が高いため、職員同士の意志伝達の再確認を行った。